

日ラグ協発第12-044号
平成24年4月20日

関東ラグビーフットボール協会
理事長 水谷 眞 様
関西ラグビーフットボール協会
理事長 田仲 功一 様
九州ラグビーフットボール協会
理事長 日野 康英 様

(財)日本ラグビーフットボール協会
専務理事 矢部 達三



U-15ジュニアラグビー競技規則の改訂等について(通達)

拝啓 平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り、「U-15ジュニアラグビー競技規則」を改訂すると同時に、「U-15ジュニアラグビー安全基準」及び「U-15ジュニアラグビー服装規定」を新設し、これ等を平成24年4月1日から施行致しますのでここに通知いたします。

但し、これらの内、「平成24年度(2012-2013)U-15ジュニアラグビー競技規則」に関する三地域協会における施行日の最終期日は平成24年9月1日といたします。

貴協会におかれましては加盟都道府県協会、および、各チームに、周知徹底いただきますようお願い申し上げます。

※該当の競技規則、安全基準、服装規定は、本協会のウェブページに掲載します。

敬具

(添付文書)

- 1) 【U-15ジュニアラグビー競技規則2012-2013】
- 2) 【U-15ジュニアラグビー安全競技基準】
- 3) 【U-15ジュニアラグビー・中学生選手服装規程】

記

【改定のポイント】

1. 「平成24年度(2012-2013)U15ジュニアラグビー競技規則」の改訂、
「U-15ジュニアラグビー安全競技基準」及び「U-15ジュニアラグビー服装規定」の新設
 - 1) 「U-15ジュニアラグビー競技規則」の内、②安全確保・安全対策強化指導を分離、独立し、
「U-15ジュニアラグビー安全競技基準」を新設します。
 - 2) 「U-15ジュニアラグビー服装規程」を新設します。

《改訂前》

【U-15ジュニアラグビー競技規則】

- ① U-15ジュニアラグビー競技規則
- ② 安全確保・安全対策強化指導



《改訂後》

(改定) 【U-15ジュニアラグビー競技規則】

(新設) 【U-15ジュニアラグビー安全競技基準】

(新設) 【U-15ジュニアラグビー服装規程】

2. 「平成24年度(2012-2013)U-15ジュニアラグビー競技規則」は以下の要領で改訂致します。

1) IRB競技規則との整合性を徹底する為に本競技規則の記載方法の変更について

本年度のU-15のジュニアラグビー競技規則の変更のポイントは、原則として“IRB競技規則”に準拠し、表記方法、及び項目記号を変更いたします。

※U-15のジュニアラグビー競技規則は、“IRB競技規則”と相違する箇所(読み替える箇所)、及び確認が必要な箇所のみを記載しているのは従前のおりです。この為、記載のないそれ以外の箇所は、IRB競技規則(含む19歳未満標準競技規則)に準拠していますのでこれを参照しなければならないことも従前通りです。

2) 本U-15競技規則の改定箇所について

以下の箇所を改定していますのでご参照ください。

※前述の通り、主要な改定箇所以外でも、前項1)の表記方法、及び項目記号を変更していますので、当然、各条文の記載文章も変わっています。

＝以下は主要な改定箇所のみを抜粋しています＝

第3条 プレーヤーの人数

3.3 12名未満のプレーヤーによる試合

1チームにつき12名より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が11名までは許可される。但し、チームは、試合開始時点では12名の健康な選手を揃えていなければならない。

3.4 交替/入替えのプレーヤーとして指定されたプレーヤー

交替/入替えのプレーヤーの数は10名以内とする。

また、試合途中において登録されたりザーブプレーヤー全員の交代を認める。

3.5 フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤー

(a) チームは、フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤーを5名以上含めなければならない。

第4条 プレーヤーの服装

4.1 追加着用を認めるもの(義務)

IRBが追加着用を認めるものの内、以下のものは装着・装用を義務とする。

(f) マウスガード、歯を保護するもの

(g) IRB競技に関する規定第12条に適合するIRBマークが付いたヘッドギア

第5条 試合時間

5.1 試合時間

(a) U-15カテゴリーの試合時間は40分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間20分以内ずつ前後半に分けて行う。

(b) U-14、U-13カテゴリーの試合時間は30分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間15分以内ずつ前後半に分けて行う。

(c)ただし、U-14カテゴリーの試合で、双方のチームの出場プレーヤーが全員中学2年生の場合には特例としてU-15カテゴリーの試合時間を適用することができる。

5.6 延長時間 =19歳未満標準競技規則 5.1を適用=

トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。

第10条 不正なプレー

10.4 危険なプレー、不行跡

(t) [Original⑥] ローヘッド： いずれのプレーヤーもモールへの参加を含む全ての局面において頭を肩や腰より低く（ローヘッド）した状態でプレーをすることはできない。

具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック・モール形成時を含めた全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰よりも頭を下げたままプレーすることをいう。

罰： ペナルティキック

(u) 危険なタックル： いずれのプレーヤーも手だけでジャージをつかんで相手側プレーヤーを振り回してはならない。

罰： ペナルティキック

第19条 タッチおよびラインアウト

19.8 ラインアウトの形成

(a) ラインアウトに並ぶプレーヤー(ラインアウトプレーヤー)は双方2人~5人とする。

罰: 15mライン上でフリーキック

(b) IRB競技規則に準じ、ボールの投入側がラインアウトに並ぶ最大の人数を決定する。

罰: 15mライン上でフリーキック

第20条 スクラム

20.1 スクラムの形成

(g) 双方のフロントローは、膝を十分に曲げ、腰を落とすと同時にしっかりと背中をまっすぐにし、頭を上げたスクラムの正しい姿勢をとる。

レフリーはこの姿勢を「クラウチ」の声で確認し、「タッチ」をコールする。レフリーは双方のフロント1・3番(両プロップ)が外側の腕で、確実に相手の上腕にふれるよう指導する。そしてレフリーは「ポーズ」で双方が上腕に触れ合ったまま、静止状態を確認した上で、「エンゲージ」をコールする。エンゲージは命令ではなく、フロント同士で準備ができたなら組み合せてよい、というコールである。

プレーヤーは一連の動作を確実に行なわなければならない。レフリーは、安全でしっかりとスクラムを組むよう慎重にコントロールすることとする。

罰: フリーキック

(k) [Original⑦] 安全でしっかりとスクラムの形成:スクラムは以下の各カテゴリーのプレーヤーのスキルの習熟度に応じて安全でしっかりとスクラムを形成しなければならない。

1) U-15カテゴリーでのスクラムは安全を確認した上で、しっかりと組み、かつ体重をかけあう。

2) U-14、U-13カテゴリーのスクラムは、安全を確認した上で、しっかりと組み合う。但し、レフリー又は主催者は、安全が確保できないと判断した時は、選手の習熟度に対応したスクラムとすることができる。

罰: フリーキック

20.9 スクラムにおけるその他の制限

20.9(j)=19才未満標準競技規則=スクラムの移動: スクラムは原則として押すことはできない。故意ではなく不可効力によってスクラムが1メートル以上移動してしまった場合は、元の位置に戻して再びスクラムを組む。

なお、U-15カテゴリーにおいて、ボールが投入され、フッカーがフッキングする際に、ボール投入側のスクラム位置が、若干(10~20センチ以内程度)、前に動く場合は、そのままスクラムを継続する。

罰: フリーキック

以上

「U-15ジュニアラグビー競技規則」

JAPAN RUGBY UNION 2012 (2012-2013)

はじめに

本年度、(財)日本ラグビーフットボール協会では15才-13才時期(以下「U-15」という。)の中学生プレイヤーに適用する「U-15ジュニアラグビー競技規則」を改定しました。

「競技規則に関する背景・趣旨」

(財)日本ラグビーフットボール協会は、国際ラグビーボード(以下「IRB」)が目指すラグビーフットボール競技の健全な発展のための方向性を見据え、IRBが定めるラグビーフットボール競技に照らし、日本国内独自で適用しているU-15ジュニアラグビー競技規則が、その整合性を担保できるよう継続的に検討しています。当然なことですが、U-15世代の中学生のラグビープレイヤーにとって最良、かつ安全性を確保できることを原則として、より良いU-15ジュニアラグビー競技の実現を目指し、同時にU-12(12歳以下)のミニラグビーからU-15のジュニアラグビー、そして高校生以上のフルラグビーという年代間の整合性についても、現状に照らして継続的に検証・検討しています。

「本競技規則の記載方法の変更とIRB競技規則との相関」

U-15のジュニアラグビー競技規則は、IRBの競技規則に相違する箇所(読み替える箇所)のみを記載しているのは従前のおりですが、本年度は項目記号も原則としてIRBの競技規則に準拠しています。

IRB競技規則に該当する項目がないため、U15オリジナルとして追加している項目は、IRB競技規則の項目の後のアルファベット記号を使用し、[Original として表記し、加えて○囲みの数字]で記載しています。

繰り返しますが、相違箇所(読み替え箇所)について、IRBの競技規則(含む19歳未満標準競技規則)の項目記号をそのまま使用していますが、それ以外のIRB競技規則を適用する箇所は本U-15ジュニアラグビー競技規則には記載されていません。

このため、記載のないそれ以外の箇所は、IRBの競技規則(含む19歳未満標準競技規則)を参照しなければならないことに留意して下さい。

「実施時期」 本競技規則は、2012年4月1日から施行します。

U-15ジュニアラグビー競技規則

JAPAN RUGBY UNION 2012 (2012-2013)

「基本原則」

13才-15才時期（以下総称で使用する場合は「U-15」という。）の中学生プレーヤーの試合に適用するU-15ジュニアラグビーの競技規則は、IRBが定める競技規則（含む19才未満標準競技規則）に準拠する。同時に日本ラグビーフットボール協会の定める高専、高校以下のための国内特別競技規則に関してはその趣旨を認識し準拠する。

その中でU-15に適用する独自の競技規則は、本U-15ジュニアラグビー競技規則で規定する。

試合前

第3条 プレーヤーの人数

定義

「チーム A Team」とは、試合を開始する12名のプレーヤーと、交替/入替えとして認められているプレーヤーからなる。

「交替のプレーヤー Replacement」負傷した味方のプレーヤーと交替する。

「入替えのプレーヤー Substitute」戦術的理由で味方のプレーヤーと入替わるプレーヤー

3.1 競技区域における、プレーヤーの最大人数

両チームとも、プレー中に競技区域内にいるプレーヤーの人数は、12名を超えてはならない。

3.3 12名未満のプレーヤーによる試合

1チームにつき12名より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が11名までは許可される。但し、チームは、試合開始時点では12名の健康な選手を揃えていなければならない。

3.4 交替/入替えのプレーヤーとして指定されたプレーヤー

交替/入替えのプレーヤーの数は10名以内とする。

また、試合途中において登録されたりザーブプレーヤー全員の交代を認める。

3.5 フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤー

(a) チームは、フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤーを5名以上含めなければならない。

3.10 一時的交替と応急処置

(a) 出血の有無に関わらず、プレーヤーが負傷し応急処置、或いは医師の治療を受ける必要があると判断され、競技区域からプレーヤーが出たときには、一時的交替を認める。一時的に交替されたプレーヤーが競技区域外に出て経過時間15分以内にフィールドオブプレーに戻らない場合、一時的交替をしたプレーヤーは正式交替となる。元の一時的に交替されたプレーヤーはフィールドオブプレーに戻ってはならない。

注意事項

レフリーまたは競技責任者は、プレーヤーが負傷した場合は、そのプレーヤーの安全の確保を最優先し、直ちに応急処置、或いは医師の治療を受けるよう指導する。

3.14 各協会に適用を委ねられる特別ルールとエージ制カテゴリー

(a) 三地域協会の事前の承認の下、大会（試合）を主催するか管轄する各協会の決定により、登録プレーヤー、交替人数等について規定（ローカル）することができる。但し、本事項はその地域の実情に合わせて特例として認めるものであり、いかなる場合でもプレーヤーの安全を考慮した決定でなければならない。また、本競技規則に対してローカルルールを優先することはできない。

(e) **【Original①】 エージ制カテゴリー**： U-15（13～15歳時期）のプレーヤーに適用する本競技規則では、以下のエージ制カテゴリーを採用する。

・U-15カテゴリーとは、中学2、3年生のプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合

・U-14カテゴリーとは、中学1、2年生のプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合

・U-13カテゴリーとは、中学1年生のみのプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合

(f) **【Original②】 ポジションと呼称**

〔ポジション配置〕 U-15のジュニアラグビー競技規則における12人制ジュニアラグビーのポジションは、フロントロー3名、セカンドロー2名、スクラムハーフ1名、スタンドオフ1名、センター2名、ウイング2名、フルバック1名からなる。

〔ポジションの呼称〕 呼称は以下の通りとする。



第4条 プレーヤーの服装

4.1 追加着用を認めるもの(義務)

IRBが追加着用を認めるものの内、以下のものは装着・装用を義務とする。

(f) マウスガード、歯を保護するもの

(g) IRB競技に関する規定第12条に適合するIRBマークが付いたヘッドギア

注意事項

U-13、U-14カテゴリーで、永久歯に生え変わっていない乳歯のあるプレーヤー、及びU-15カテゴリーを含めて歯科矯正などを行っているプレーヤーについて、マウスガード装着を推進している本協会・メディカル委員会・歯科部会では、マウスガードを装着することによる安全対策とリスク回避が重要であるとの見解である。同時に可能な限りマウスガードは専門の歯科医で作成することを推奨する。

第5条 試合時間

5.1 試合時間

(a) U-15カテゴリーの試合時間は40分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間20分以内ずつ前後半に分けて行う。

(b) U-14、U-13カテゴリーの試合時間は30分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間15分以内ずつ前後半に分けて行う。

(c)ただし、U-14カテゴリーの試合で、双方のチームの出場プレーヤーが全員中学2年生の場合は特例としてU-15カテゴリーの試合時間を適用することができる。

5.2 ハーフタイム

ハーフタイム後、サイドを交換する。休憩時間は5分以内とする。

5.6 延長時間

=19歳未満標準競技規則 5.1を適用=
トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。

5.7 その他、時間に関する規則

(h) **【Original③】 1日2試合実施する場合の試合時間：**

(1) U-15カテゴリーでは、試合時間は34分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間17分ずつ前後半で分けて行う。

(2) U-14、U-13カテゴリーでは、試合時間は1日1試合の場合と同様に30分以内に加えて、失われた時間とする。競技時間は15分ずつ前後半で分けて行う。

(3) U-14カテゴリーの試合で、双方のチームの出場プレーヤーが全員中学2年生の場合は特例としてU-15カテゴリーの試合時間を適用することができる。

(i) **【Original④】 1日あたりの試合制限 (1)：**

(1) 中学3年生、中学2年生のプレーヤーは、1日70分を超える試合を行ってはならない。

(2) 中学1年生のプレーヤーは、1日60分を超える試合を行ってはならない。

(3) 協会は、チームに1日2試合を超えて試合を提供することはできない。

(j) **【Original⑤】 1日2試合実施する場合の特例：**

協会は、U-15カテゴリーの試合で1日2試合実施する場合でも、選手全員の交代を規定している場合等で、かつ1人の選手が1日70分を超えて試合に出場できないように規定し、十分に選手の出場時間を管理する場合は、特例として20分ハーフで実施することができる。

試合中

試合を行う方法

第10条 不正なプレー

10.4 危険なプレー、不行跡

(t) **[Original⑥]** ローヘッド： いずれのプレーヤーもモールへの参加を含む全ての局面において頭を肩や腰より低く（ローヘッド）した状態でプレーをすることはできない。具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック・モール形成時を含めた全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰よりも頭を下げたままプレーすることをいう。

罰： ペナルティキック

(u) 危険なタックル： いずれのプレーヤーも手だけでジャージをつかんで相手側プレーヤーを振り回してはならない。

罰： ペナルティキック

10.5 措置

(a) いかなるプレーヤーも、不正なプレーに関する競技規則の反則を犯した場合、注意、警告による以下に定める時間の一時的退出、または退場のいずれかを命じられる。一時的退出の時間は、U-15カテゴリーの前後半20分ずつの試合では5分間とし、前後半17分ずつの試合の場合、およびU-14、U-13カテゴリーの前後半15分ずつの試合では4分間とする。

試合の再開

第19条 タッチおよびラインアウト

19.8 ラインアウトの形成

(a) ラインアウトに並ぶプレーヤー（ラインアウトプレーヤー）は双方2人～5人とする。

罰： 15mライン上でフリーキック

(b) IRB競技規則に準じ、ボールの投入側がラインアウトに並ぶ最大の人数を決定する。

罰： 15mライン上でフリーキック

19.10 ラインアウトにおける制限

(d) **リフティングおよびサポート**： プレーヤーがリフティングおよびサポート、またはいずれか一方を行う場合、ジャンプする味方のプレーヤーを持ち上げるか、サポートする場合は、後方、正面からを問わずにジャンプするプレーヤーのパンツ（ショーツ）を順手で握ってサポートしなければならない。なお、プレーヤーの太ももを直接サポートすることはできない。サポート、又はリフティングは後方から1名、正面から1名で行う。

罰： 15mライン上でフリーキック

(g) **プレーヤーを地上におろす**： 跳び上がる味方のプレーヤーをサポートするプレーヤーは、どちらかの側のプレーヤーがボールを獲得したらすぐに、そのプレーヤーを下さなければならない。しかし、サポート、又はリフティングは、跳び上がったプレーヤーの両足が完全に着地するまで続けなければならない。

罰： 15mライン上でフリーキック

第20条 スクラム

定義

スクラムの目的は、軽度の反則あるいは競技の停止があった後、早く、安全に、公平に試合を再開することである。

スクラムは、フィールドオブプレーにおいて、お互いにバインドして2列になった5人ずつのプレーヤーによって形成され、双方のフロントローは頭を交互に組み合う。

組み合うことによってトンネルが形成され、そこに、双方のフロントローが左右どちらか片方の足でフッキングすることによりボールを獲得するよう、スクラムハーフがボールを投入する。

スクラムの中央の線がゴールラインから5メートル以内であってはならない。スクラムはタッチラインから5メートル以内では形成されない。

トンネルとは、双方の、フロントローの間の空間をいう。

スクラムハーフとは、双方の、スクラムにボールを投入するプレーヤーをいう。

スクラムの中央の線とは、トンネル内の、双方のフロントローの肩の接点で作られた線の真下の地上に想定された線をいう。

フッカーとは、双方のフロントローの中央のプレーヤーをいう。

プロップとは、フッカーの両側のプレーヤーをいう。左側のプロップをルースヘッドプロップ、右側のプロップをタイトヘッドプロップという。

ロックとは、2列目に位置し、2列目の左右のプレーヤーをバインドし、フッカーおよびプロップを押す2人のプレーヤーをいう。

注：U-15ジュニアラグビー競技では、フランカー2人、ナンバーエイト1人は存在しない。

20.1 スクラムの形成

(e) **プレーヤーの数**： スクラムの形成は、双方それぞれ5人のプレーヤーによらなければならない。その5人のプレーヤーは、スクラムが終了するまで継続してバインドしていなければならない。双方のフロントローはいかなる場合でも3人のプレーヤーでなければならない。

い。2人のロックが2列目を形成しなければならない。

いかなる場合もこの人数を超えるか、又は減らすことはできない。

罰： ペナルティキック

＝19歳未満標準競技規則＝

(f) ノンコンテストスクラムの適用： 以下の場合には、安全を優先し、ノンコンテストスクラムを適用する。

フォワードプレーヤーが負傷し、退場による交替、または負傷による応急処置や治療が終わるまでの一時的交替が必要な場合で、出場するプレーヤーにフォワードプレーヤーがいなかったか、フォワードの訓練を受けていない場合は、その後に生じたスクラム、或いは負傷したプレーヤーがゲームに復帰するまでの間に生じたスクラムについてはこれを行わず、ノンコンテストスクラムとする。

ノンコンテストスクラムにおいては、

- ・ ボールを取り合わない
- ・ ボール投入側が必ずボールを獲得する
- ・ 双方ともスクラムを押しはならない

(g) 双方のフロントローは、膝を十分に曲げ、腰を落とすと同時にしっかりと背中をまっすぐにし、頭を上げたスクラムの正しい姿勢をとる。

レフリーはこの姿勢を「クラウチ」の声で確認し、「タッチ」をコールする。レフリーは双方のフロント1・3番（両プロップ）が外側の腕で、確実に相手の上腕にふれるよう指導する。そしてレフリーは「ポーズ」で双方が上腕に触れ合ったまま、静止状態を確認した上で、「エンゲージ」をコールする。エンゲージは命令ではなく、フロント同士で準備ができたなら組み合っただけ、というコールである。

プレーヤーは一連の動作を確実にこなさなければならない。レフリーは、安全でしっかりとスクラムを組むよう慎重にコントロールすることとする。

罰： フリーキック

(k) **[Original⑦]** 安全でしっかりとしたスクラムの形成： スクラムは以下の各カテゴリーのプレーヤーのスキルの習熟度に応じて安全でしっかりとしたスクラムを形成しなければならない。

1) U-15カテゴリーでのスクラムは安全を確認した上で、しっかりと組み合、かつ体重をかけあう。

2) U-14、U-13カテゴリーのスクラムは、安全を確認した上で、しっかりと組み合う。但し、レフリー又は主催者は、安全が確保できないと判断した時は、選手の習熟度に対応し

たスクラムとすることができる。

罰：フリーキック

20.3 スクラムのバインディング

(f) **他のすべてのプレーヤー（ロックのバインド）**：ロックは、スクラムが組まれる前に、一方の腕を味方ロックに必ずバインドし、かつ外側の腕は必ず前にいるプロップの腰をまくようにバインドしなければならない。同時に膝を上げて、頭を落とさないようにフロントローの間に確実にに入れて組まなければならない。プロップ以外のプレーヤーは、相手側のプレーヤーをつかんで서는ならない。

罰：ペナルティキック

(g) ロックは、規定どおりバインドしていたとしても、腰や膝を落としたり、外側に開いたり、あるいはスクラムの角度を変えることはできない。当然に相手側のスクラムハーフのプレーを妨害してはならない。

罰：ペナルティキック

20.9 スクラムにおけるその他の制限

=19歳未満標準競技規則=

(j) **スクラムの移動**：スクラムを相手ゴールラインに向かって押すことは反則である。故意ではなく不可効力によってスクラムが1メートル以上移動してしまった場合は、元の位置に戻して再びスクラムを組む。

なお、U-15カテゴリーにおいて、ボールが投入され、フッカーがフッキングする際に、故意ではなくボール投入側のスクラム位置が、若干（10～20センチ以内程度）前に動いた場合は、そのままスクラムを継続する。

罰：フリーキック

20.10 スクラムの終了

(c) **最後尾のプレーヤーがバインドをはずした場合**：スクラムの最後尾のプレーヤーとは、スクラムに参加しているプレーヤーの中で、足が自陣のゴールラインに最も近いプレーヤーをいうが、本競技規則では、ロック2名をいう。スクラムの最後尾のプレーヤーが、その足もとにボールがある状態で、バインドをはずしてボールを拾い上げることによってスクラムを終了することはできない。

罰：ペナルティキック

(d) **[Original⑧] 故意のプレーの禁止**：故意にスクラムの中にあるボールをプレーヤーが足で最後尾のプレーヤーの横のスクラム外にボールを出すことによって、スクラムを終

了させ、最後尾のプレーヤーがボールを拾い上げることはできない。

罰： ペナルティキック

(e) **[Original⑨]** スクラム終了後の最後尾のプレーヤーのプレー：故意ではなく、スクラムのトンネル以外からボールがスクラム外に出たことによってスクラムが終了し、その後、最後尾のプレーヤーが最初にボールを拾い上げることはできる。

20.12 スクラムにおけるオフサイド

(a) スクラムが組まれるとき、スクラムにボールを投入しない側のスクラムハーフの立つべき位置は、ボールを投入しようとするスクラムハーフと同じ側のスクラムのセンターラインを越えない場所か、または他のプレーヤーに指定されているオフサイドラインの後方である。

罰： ペナルティキック

(b) **スクラムハーフのオフサイド**：ボールを獲得した側のスクラムハーフは、ボールがスクラムの中にある間、両足をボールより前に出した場合、あるいはスクラムのセンターラインを越えた場合はオフサイドとなる。但し、ボールをスクラムに投入する場合にスクラムの中央線上、スクラムの地点から少なくとも1メートル離れた場所に立つことを除く。

罰： ペナルティキック

(c) ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフは、ボールがスクラムの中にある間、片足でもスクラムのセンターラインを越えるか、あるいは片足でもボールより前に出した場合にはオフサイドになる。

罰： ペナルティキック

以上

【U-15 ジュニアラグビー・中学生選手服装規程】

1. 序章

日本ラグビーフットボール協会競技力向上委員会普及育成部門中学生部門は、以下のとおり 15 歳~13 歳の中学生選手について本服装規程を定める。

2. 本則

1) 『IRB 競技規則、日本ラグビー協会規則及び通達等に準拠』

原則として IRB の定める選手の服装に関する規程、日本ラグビーフットボール協会が定める規則や通達に従う。

これ等に規定されていない事項や 15 才以下の中学生選手に別途、適用する事項については以下のとおり本服装規定で定める。

2) 『基本概念』

(1) 選手は礼を正し、対戦相手、レフリー、観客、主催者、主管者等に敬意を表し、ジャージ、パンツ、ソックス (ストッキング)、スパイク、ヘッドギア、及びマウスガードを正しく着用 (或いは着装) する。

(2) 試合には服装の乱れをないように十分に注意する。

例えば、襟を折る、袖を折る、上着の裾を外側に出す、或いはソックス (ストッキング) を下げたり、短くすることは厳に慎む。

3) 『チームウェアの統一』

チームは、原則として、登録選手全員が、ジャージ、パンツ、ソックス (ストッキング)、を同色、同柄の同じデザインの物を着用 (着装) する。

4) 『背番号』

(1) ジャージには、背中に IRB で定められた背番号を付けなければならない。この場合、スターティングメンバーは、原則として選手のポジションに合致した背番号とする。リザーブ選手は、13 番以降、空数字のないように背番号を付けることとする。

(2) 但し、当面の間 (現時点では、期限は設定していない)、本背番号規定は努力目標とするが、日本ラグビーフットボール協会主催の大会によっては、大会規定で厳格履行する場合がありますので注意する。

3. 履行確認

本規定の履行確認は、該当試合のドレスチェック時に確認する。

4. 禁止行為

1) 『ヘッドギア』

ヘッドギアを調整する紐は、ヘッドギア本体と同色、或いは黒、紺、グレー、白等に限定する。華美な色を使用することや、必要以上に長くすることではできない。当然、それ以外の装飾品を附着（装着）させることはできない。

2) 『マウスガード』

原則としてラグビー協会の推奨する専門の歯科医等で作製し、安全を考慮したマウスガードを着装し、マウスガードの色は、白、乳白色、透明、黒、濃紺等とし、口腔内や唇が出血していると見紛うような色等、赤等の華美な色を使用したマウスガードは禁止する。

3) 『アンダーウェア』

アンダーウェアは、ジャージ、或いはパンツ等、着用する外側のウェアの色に合致するか、或いは黒、濃紺とする。例え同色であってもそれ以上に華美な色は禁止する。

なお、白色については華美にならないことを前提に当面の間、特例として認める。

5. 適用範囲

1) 本規程は、日本ラグビーフットボール協会主催試合、及びこれに準じる試合に適用する。

2) 三地域ラグビーフットボール協会主催試合においては原則として本規定を適用する。但し、三地域協会主催試合においては別途、ローカルルールを定めることができるが、本規定はローカルルールに対して優先する。

6. 対象者

本規程の対象者は、15歳以下の中学生選手とする。

7. 施行日

本規定は2012年4月1日から施行する。

以上

【U-15ジュニアラグビー安全競技基準】

はじめに

(財) 日本ラグビーフットボール協会では、15才～13才時期（以下「U-15」という。）の中学生プレーヤーに適用する「U-15ジュニアラグビー競技規則」を改訂しました。同時に第2部の安全確保・安全強化指導については、今まで以上に周知徹底したいとの意図から、「U15ジュニアラグビー安全競技基準」として独立させて掲示することとなりました。

「実施時期」

本安全競技基準は2012年4月1日から施行します。

「U-15（15～13歳）ジュニアラグビー指導者・関係者、U-15中学生プレーヤーの皆様へ」

U-15（15～13歳）の中学生選手の安全確保については日頃から選手自身、及び指導者・関係者の方々は管理、あるいは注意されていると認識しておりますが、さらに一層、安全対策を強化していただきたくお願い申し上げます。

確認の為、以下に特に注意していただきたい事項を記載いたしますのでご一読の上、周知徹底の程、お願いいたします。

U-15（15～13歳）の中学生プレーヤー諸君にはよくお読みいただき理解、及び実行してください。

〔注意 I〕

安全対策は下記事項の他、安全対策委員会の安全推進講習会、及び各協会の安全対策委員会、コーチ委員会等から出されている通知、通達、注意事項を十分に考慮して周知徹底の上、厳格履行して下さい。

1. 「プレーヤーの健康管理の徹底」

(1) 健康（体調）管理

プレーヤーは体調不良や睡眠不足の時、又は頭部に違和感、頭痛、記憶が定かでない状況や打撲や圧迫などによる胸痛、腹痛などの兆候が少しでもある場合は、直ちに練習、試合を中止して医師の診断を受ける。指導者はプレーヤーの体調について十分に管理監督する。

(2) 脳震盪対策

IRB脳震盪ガイドラインを厳守する。

〔詳細は以下、日本ラグビーフットボール協会ウェブページを参照下さい〕

『脳震盪ガイドラインについて』

<http://www.rugby-japan.jp/about/committee/safe/concussion2011/guideline.html>

『IRB脳震盪ガイドライン』

<http://www.rugby-japan.jp/about/committee/safe/concussion2011/guideline/guideline.pdf>

(3) 軽度の頭部打撲とその後（二度目の頭部打撲による）の重症事故の危険性

軽い頭部打撲でも医師の診断を受けるよう徹底し、練習を休むなど安静にした上で、経過を慎重に見守ること。最近の事例では最初に軽い頭部打撲を負った後、数日から数週間後に二度目の頭部打撲（脳震盪／脳震盪の疑いを含む）を起こし、重症事故（死亡事故）に発展しているケースが観られる。一回目の頭部打撲が軽いか、もしくは自覚症状がほとんどなくても頭部内は大きなダメージを受けている可能性があることに充分留意する。

(4) 熱中症対策

練習、試合に際しては十分に水分補給を行い熱中症の発生を防止する。のどの渇きがあると無いとにかかわらず、練習、試合前には事前にある程度の水分を補給し、練習、試合中ものどの渇きを感じる前に継続的に水分補給を行う。なお、多少、塩分やミネラル入りの水分を補給することが望ましい。

仮に熱中症が疑われる場合は、直ちに涼しい場所に寝かせ、首や股関節部等の大血管の体表に近い部位を冷却する等、適正な措置を行う。その後、可及的速やかに医師の診断を受ける。

(5) 感染性疾病対策

ノロウイルス、O157、インフルエンザ等の感染性疾病に罹った可能性がある場合は、直ちにチームを離れ、医師の診断を受けるとともに、医師の指示に従って安静を守り治療に専念する。医師の許可がない場合はチームへの合流やチームメイトとの接触は避ける。チームは平時からうがいや手洗いを履行し、感染しないよう十分に注意する。

(6) 付き添い

脳震盪や熱中症になった場合、プレーヤーは未成年者であり、症状や所見は成人のそれとは一致せず、かつ急速に悪化することがあるため、必ず成人の指導者、または親を24時間一緒に付き添わせる必要がある。

2. 「体力強化及び技術的指導による安全確保」

(1) プレーヤーの体力強化

指導者及びプレーヤーは、安全確保を重視し、ラグビーを安全におこなうのに必要なプレーヤーの首を中心に首に連なる背中・肩、及び胸、腹などの筋力強化と股関節などの柔軟性向上に努め、プレーヤーが以下のプレーを習得できるよう努める。

〔注意Ⅱ〕

実施にあたっては中学生が成長期であり、骨・軟骨・関節等が成長途中であることを考慮してプレーヤー自身の体重（体を利用した）によるトレーニングに限定して、用具を使っての過度（負荷など）なトレーニングはおこなわないよう注意し、柔軟性を高めることを重視した筋力作りを心がける。

(2) 全てのプレーにおいて

腰よりも頭が下がらないよう十分に注意する。頭が下がるローヘッドは全ての局面で行わない。

(3) スクラム（含むタックル）

膝を十分に曲げ、腰を落とす。背中をまっすぐにし、頭を腰よりも高くする。顔は相手プレーヤーを正面から直視し、スクラム（タックル時もほぼ同じ）の正しい姿勢を作れるよう十分に訓練し、安全でしっかりとしたスクラムが組めるよう努める。（スクラムの段階的な組み方に関しては本競技規則第20条スクラム2.「安全でしっかりしたスクラムの形成」を参照して下さい）

(4) タックルするプレーヤー（以下タックラーという。含むセカンドタックラー）

①タックラーは相手プレーヤーの動き、走る角度などを確認し、顔を上げて最後まで目を離さずにタックルする。

②タックラーは逆ヘッドにならないよう十分に注意する。

③タックラーは頭を下げずに十分に足を踏み込んでタックルする。くれぐれも上半身だけをコンタクトさせるような飛び込むタックルは行わない。

④タックラーは相手プレーヤーをしっかりとバインドしてタックルする。

⑤タックルが成立した後、タックラーは、タックルしたプレーヤーを離し、立ち上がり

ボールの争奪に加わるか、退転する等し、プレーが継続するように努める。

⑥以下のタックルは厳に慎む

- ×手だけで相手のジャージをつかんで振り回すタックル
- ×相手をバインドせずに押し倒すか、突き倒すタックル
- ×あご、顔、頭、肩の上部などの肩よりも高い位置へのタックル(ハイタックル)
- ×腕を伸ばして相手プレーヤーに打ち付けるタックル(スティファームタックル)
- ×ボールを取る前のプレーヤーに対する早すぎるタックル(アーリータックル)
- ×ボールを蹴るかパスした後のプレーヤーに対する遅すぎるタックル(レイトタックル)

(5) タックルされるプレーヤー

タックルされた場合を想定してボールを持った状況であごを引いて背筋を丸める正しい受身の動作ができるよう十分に訓練する。なお、タックルが成立した後、タックルされたプレーヤーは、ボールを離し、立ち上がるか、退転する等し、次のプレーを妨げない。

(6) タックル後、ジャッカル、ラックの形成前、ラックの形成時等

①□タックル成立後、ジャッカルを行うプレーヤーは腰を低くし、ローヘッドにならないよう顔を充分に上げて、相手プレーヤーの状況を確認し、相手プレーヤーの動作に対応できるような安全な体勢を確保する。

②□タックル成立後、ボールの上でボールを確保する場合も、上記と同様に、腰を落とし、ローヘッドにならないよう顔を充分に上げて、相手プレーヤーの状況を確認し、相手プレーヤーの動作に対応できるような安全な体勢を確保する。同時に味方プレーヤーの後方からの圧力に対して、足を踏み込むだけでなく、倒れこまないような体制を作る。

③□ラックの形成前、ラックの形成時の以下の行為は厳に慎む。

- ×ボールを超えて飛び込む
- ×相手を頭から突き倒すか、単に頭から突進する
- ×手だけで相手のジャージをつかんで振り回す
- ×倒れている相手プレーヤーを故意に足で踏みつける。

以上